

別紙 1

1 環境保全活動に関する方針等

＜環境保全活動に関する方針等＞

**【環境方針】**

[理 念]

私たちは、地球環境の大切さを十分認識し、環境に配慮した企業活動を通して恵み豊かな地球の存続に貢献します。

[指 針]

1. 事業活動全般について、省エネルギー、省資源、廃棄物の削減・再資源化及び地球温暖化物質等の排出抑制に努め、汚染の予防を推進します。
2. 事業活動の各段階で環境に配慮した商品・サービスの提供に努めます。
3. 環境に関わる法律を遵守するとともに、自主基準を設定し事業活動を行います。
4. 環境目標を定め、定期的に見直すことにより、環境活動の継続的改善を図ります。
5. 環境教育を通して環境意識の向上を図り、環境活動に積極的に取り組みます。
6. 社内外に必要な環境情報を公開します。

(目標・計画等の公表の方法についても記載のこと。)

2 推進体制の整備

＜環境保全活動に関する組織体制＞

部署名	担当内容
人事総務部 総務グループ	環境関連窓口
生産SCM本部 生産SCM企画推進部 需給グループ	特定荷主の責任
生産SCM本部 生産部 生産運営グループ 第二チーム	環境測定および届出

## 別紙2

## 3 環境保全活動の実施状況等

項目	取組結果	今後の取組計画 (2018年度計画)
1. 原油換算エネルギー量 原単位2010年度から 年平均1%削減する。(製 造グループ)	生産数量約6%減の状況下、製造工程改善、設備更新及びLEDの導入等の省エネルギー活動を試みたが、7.8%増加で、目標は未達成。(2016年度は7.0%削減が基準) 直近5年間の年平均では0.7%増加。	1. 原油換算エネルギー量原単位2013年度から年平均1%以上削減する。
2. エネルギー総量を2 010年度から年平均 1%削減する。(生産部 門各グループを除く全部 署)	・ノー残業デー月2回以上実施、室内温度設定管理(夏季:28℃、冬季:20℃程度)、昼食休憩中の消灯、蛍光灯の間引き、LED照明導入等の省エネルギー活動を実施。 ・伊丹本社全体の原油換算したエネルギー使用量は、2010年度比28%削減、また製造グループを除く部署でも2010年度比17%削減で目標を達成。(2017年度は17%削減が基準)	2. エネルギー総量を2013年度から年平均1%以上削減する。
3. 輸送方法の効率化の推 進。 ガソリンを2014年度使用 量から3%削減する。→年 度途中で大幅な使用量減 が見込まれたため2014年 度使用量から50%減に目 標を変更	・公共交通機関の活用、近場の自転車利用及びエコドライブ等の地道な活動を実施。しかしながら業務利用が見込み以上に増加したため、2014年度比44.0%減で未達成。目標を適正な値で設定し、引き続きエコドライブ及び業務効率化等により、使用量削減を試みる。	3. 輸送方法の効率化の推進。 ガソリンを2013年度使用量から年平均1%以上削減する。
4. 廃棄物排出量を201 4年度より年3%削減す る。(製品廃棄を除く)	・生産数量の減少が大きな要因であるが、原材料の適正在庫管理、期限管理による廃棄品の削減及びファイル等事務用品の再利用等の地道な活動により、2014年度比27%削減となり、目標達成。	4. 廃棄物排出量を2013年度より年平均1%削減する。(製品廃棄を除く)
5. 廃棄物の再資源化率9 9%。	・99.4%で結果的には目標を達成したが、昨年に続き未資源化廃棄物の資源化の成果が出なかったため、引き続き検討課題としていく。	5. 廃棄物の再資源化率99%以上。
6. 排水時に飲料を流さ ないなど水質汚濁防止活 動、排水規制値遵守。	・排水時に飲料を流さない等地道な取組み及び排水処理設備の安定稼働により、今年度のCOD値(52.5mg/L)については、昨年度(52mg/L)に近い水準を維持できた。またBOD値等の規制値を超えることは無かった。 (下水道の排水規制値、自主規制値ともに適合)	6. 排水時に飲料を流さないなど水質汚濁防止活動、排水規制値遵守。

<p>7. 環境配慮型の包装資材を積極的に検討し、既存製品の改良及び新製品を開発する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 500ml ペットボトルの軽量化（2g 減）を検討。</li> <li>・ 280ml ペットボトルの軽量化（2.6g 減）の検討を完了。</li> <li>・ 140ml 瓶の軽量化（5g 減）の検討を完了。</li> <li>・ 500ml ペットボトル使用段ボールケース（約3cm×24cm×2面/ケース）の削減検討を完了。</li> </ul>	<p>7. 環境配慮型の包装資材を積極的に検討し、既存製品の改良及び新製品を開発する。</p>
<p>8. 紙使用量の削減、コピー用紙の再生紙使用率の維持・向上。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紙使用量は、ペーパーレス会議実施及び複合機の機能活用等により前年比7%削減。</li> <li>・コピー用紙の再生紙使用率は100%を維持。</li> </ul>	<p>8. 紙使用量を2017年度より年1%削減する。</p>
<p>9. 環境月報による活動把握及びPDCA活動の推進。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループ単位での環境月報報告により、進捗状況を確認。</li> <li>・各グループ単位で本業に関する環境活動目標を設定し、PDCA活動推進を実施。</li> </ul>	<p>9. 環境月報による活動把握及びPDCA活動の推進。</p>
<p>10. 環境に関する教育の実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社内一斉教育</li> <li>・部署毎の教育</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・省エネ学習として、各職場で「省エネ機器～特長や使い方～」を題材にした学習会を実施。（10～3月）</li> <li>・各グループ単位の環境教育(年度計画)の実施。（内部環境監査にて教育状況を確認。）</li> </ul>	<p>10. 環境に関する教育の実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社内一斉教育</li> <li>・部署毎の教育</li> </ul>
<p>11. 地域社会活動への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業場周辺の清掃活動。</li> <li>・全社員による事業場周辺の清掃活動(年2回実施)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業場周辺の清掃活動を実施。(週1回)</li> <li>・全社員による事業場周辺の清掃活動を年2回実施。(5月、12月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業場周辺の清掃活動。</li> <li>・全社員による事業場周辺の清掃活動(年2回実施)。</li> </ul>